

HKFA Technical Report 2018

第33回日本クラブユース選手権(U-15)北海道大会

日時

2018年6月16日(土)～
7月8日(日) 決勝

会場

夕張サングリン
スポーツヴィレッジ
(夕張平和運動公園)

対戦カード

北海道コンサ ドーレ 札幌U-15	前半(0-0)(1-1) 延長(0-0)(1-0) PK(1-3) Total 1-1	北海道コン サドーレ 旭川U-15
-------------------------	---	-------------------------

HKFA TSG member

宮永 裕教(TSG チーフ)
小林 俊也(一貫指導 U-16)
池田 裕哉(GK プロジェクト)
野口 翔太(女子)



1 大会概要

全道的には、中体連チームが減少しクラブの数が増加している傾向にあり、多くの選手がクラブで活動している状況にある。今大会では、道カブスのチーム以外にブロックカブス所属のチームがベスト8入りを果たしており、北海道のクラブ全体の底上げが見られた。それぞれ勝ち上がったチームにおいては、全国大会での活躍とインターシティカップ参加のチームの活躍を期待したい。(大会主催者)

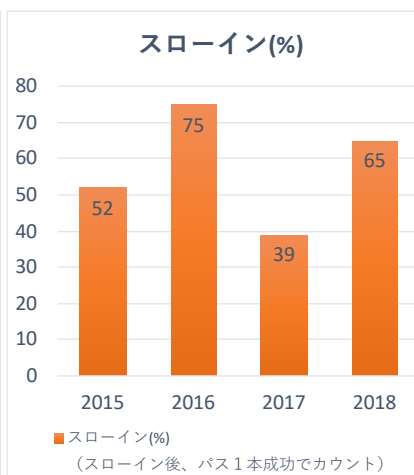
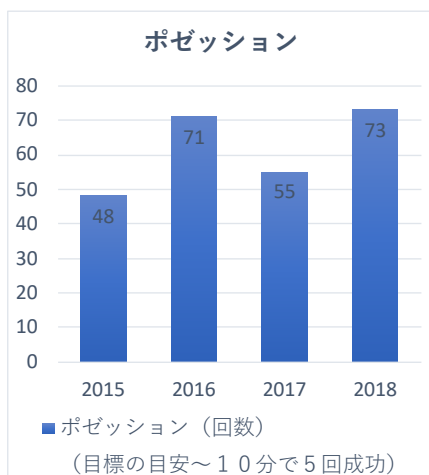
2 試合前のインタビュー

(北海道コンサドーレ札幌 U-15 監督 柴田慎吾氏)

チーム始動当初からトレーニングの中で積み上げてきた、個人戦術・サッカー理解・ボール状況や相手の状況に合わせた判断が成果として現れ、選手が成長しつつ勝ち上がることができて良かったです。また、育成年代は、個々の選手が成長することが重要なので、決勝戦であることは関係なく戦いたいですし、特別な舞台なので勝負にこだわりのながらいつも通り戦いたいです。

(北海道コンサドーレ旭川 U-15 監督 中三川哲治氏)

負けたら終わりという、リーグとトーナメントの違いから選手が固くなり思ったようなプレーができず、ぎりぎりの中でしたが、勝ち上がることができて良かったと思っています。相手選手全員が上手なので、ポゼッションされると思うので我慢し、シュートはさせないようにしたいと思います。守ってカウンターというよりは、守備を安定させながらチャンスに繋げていきたいです。



<データ比較>

特にスローインからのプレーについて、前大会からの改善が観られた決勝戦となった。両チームともに守備の意識が高い展開においても、ボールを簡単に失わなかったことによって、ゴールのチャンスを生み出していたり、安定したポゼッションに繋がっていたと考える。

3 成果と課題

成果 (守備)

Df.サードでの守備では、ブロックをしっかり形成し、相手オフENSEを簡単に進入させず、1stDFが相手を自由にさせないよう、球際で強く奪う姿勢が光っていた。また、お互いの攻撃の良さを消しあうような守備によって、攻撃の芽を摘みあう展開が特徴的であった。

成果 (攻撃から守備への切り替え)

両チームとも守備の意識が高く、ボール奪われた瞬間に奪い返しにいき、すぐに守備ブロックを形成し、相手の攻撃を防いでいた。

どちらのチームも守備に対する意識が高く、日常からこのような環境でトレーニングを行うと攻撃面もさらに高めていけるように感じた。

課題 (ゴール前での崩し)

ボールを奪ってから、バイタルエリアにボールを運ぶことはできていたが、守備ブロックを崩しきれない場面や、トップへの縦パスを失う場面が多かったように感じた。

そのため、バイタルエリアから、なかなか先に進むことができずシュートまで持ち込む場面が少なかった。

6 GKのプレー

① ブレイクアウェイ

DFの背後のスペースに出されるボールを狙う意識が高く、ペナルティーエリア内外を広く守ろうと意識し、ボールを奪う場面も見られた。一方で、味方チームの攻撃の時のポジションが低く、攻守が切り替わったときに準備が遅れる場面が見られた。また、きわどいボールに対して決断が遅れ、ピンチを招く場面も見られた。試合を通して状況に応じた的確なポジションを取り続けることが課題である。

② クロス

ボール状況を見て、クロスに対してのポジションを微調整し、積極的にボールチャレンジしていく姿勢が見られた。しかし、準備で、ペナルティーエリア内の状況を確認していなかったり、シュートストップ同様予備動作が大きく、反応が遅れる場面があった。状況を観るタイミングや構えるタイミングなど良い準備を習慣化する必要がある。



③シュートストップ

チーム全体として、ディフェンスへの意識が高く、枠内へのシュートの本数は少なかった。また、DFにコーチングをし、前後左右に良いポジションをとり続けるシュートへの対応が光っていた。一方で、予備動作が大きく、シュートへの反応が遅れる場面があったので、良い準備をして構えるタイミングが課題である。

④攻撃参加

積極的な攻撃参加を意識してプレーしており、ボールをキャッチした後、素早く切り替えて攻撃に移行していた場面がみられた。また、DFと連携し、GKがパスを受けて状況を変えるプレーもみられた。しかし、ショートパスは正確に繋いでいたものの、ミドルパスやロングパスの成功率が低く、相手ボールになる場面が多かった。(24%)ミドルパス、ロングパスの精度については課題である。

7 試合後インタビュー

(北海道コンサドーレ札幌 U-15 監督 柴田慎吾氏)

相手がリトリートしてくる中で、最後まで崩し切ることができませんでした。流れの難しいゲームでも勝ち切ることができる力が必要と感じています。

また、勝っている状況の中、ワンプレーで追いつかれてしまったのは反省点です。この思いを全員が忘れず、上手いというだけでなく真に強いチームになるために、やることは今までと変わらないが日常を突き詰めていくことが重要であると感じました。

(北海道コンサドーレ旭川 U-15 監督 中三川哲治氏)

前の試合も延長戦だったので体力面が心配でしたが、戦いきれてよかったです。初戦と同様に先制されてから追いつくことができ、メンタル面での成長を感じることができました。個人の技術面に課題を感じましたが、これは日々の積み重ねであるのでこれからも継続してトレーニングを行っていきます。また、判断のないプレーが多くすぐにボールをロストしてしまうので、そこを改善しボールを保持する時間を増やしたいです。

8 まとめ

両チームとも、質の高い守備が見られるなかで、シュートシーンを数多く作るためのバイタルエリアでの崩しの重要性が感じられる試合となった。また、選手がセルフジャッジをしている場面では、それをさせないよう声をかけるコーチの姿も印象的だった。

最後に、空知地区サッカー協会並びに JCY 連盟の皆様をはじめ、HKFA/TSG の活動にご協力いただいた各チームの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

世界基準を日常に
日本のトップレベルを目指す北海道
5ブロックで一貫指導体制の構築